

# 環境活動レポート

(2014年度)



わたしたちは、いちばん大切なひとに笑顔をお届けするため、  
人にやさしい・地球にやさしい、食品づくりを目指します。

2015年6月1日

(2014年4月～2015年3月)



株式会社 **みすず** コーポレーション

# 目次

1. 会社概要
2. 環境方針
3. エコアクション21推進体制
4. 環境目標と実績
5. 次年度環境目標
6. 主要な環境活動と結果の評価
7. 適用法令の遵守状況

## 1. 会社概要



- 事業者名及び  
代表者名 株式会社みすずコーポレーション  
代表取締役社長 塚田裕一
  
- 所在地 本社・本社工場：  
〒380-0922 長野市大字若里1606番地  
電話:026-226-1671(代表)  
更北工場：  
〒381-2212 長野市小島田町字中村北沖2122-1  
電話:026-284-5165
  
- 対象事業所 本社・本社工場、更北工場、  
東京支店、名古屋支店、大阪支店、札幌営業所、仙台営業所、  
岡山営業所、広島営業所、四国営業所、福岡営業所
  
- 管理責任者氏名 環境管理責任者： 社長室 室長 田中雅巳  
担当者連絡先 担当者:リサイクル管理部 課長 宮尾幸彦  
連絡先： 電話 026-226-1671  
Fax 026-223-2271
  
- 事業内容 凍り豆腐、油揚げ及び味付け油揚げ等の研究開発、製造及び販売  
再生可能エネルギーによる発電及び電気の販売
  
- 売上高 13,300 百万円(2015年3月)
  
- 従業員数 634 名(2015年3月)
  
- 工場の規模 工場延べ床面積:35,384m<sup>2</sup>(2015年3月)  
敷地面積:53,560m<sup>2</sup>(2015年3月)

## 2. 環境方針

### みすずコーポレーション環境方針

光や水、空気、そして食物を生み出す豊かな天地、自然は私たちの生命を育むかけがえないめぐみです。当社は、この自然の恩恵に心から感謝し、この自然のめぐみを生かすことに心を配りながら「おいしいはやさしい」のキャッチフレーズの下、事業活動を進めてまいりました。

当社は、「健康」と「環境」というかけがえのない宝に寄与する企業としての、又、豊かな日本の食文化を継承する企業としてのプロの誇りと責任を持って、環境保全活動に積極的に取り組み、資源循環型企業を目指すにあたって、次のことを約束します。

1. 当社の活動、製品及びサービスが、環境に与える影響を認識し、社内に環境マネジメントシステムを構築し、同システムの継続的な改善を図ります。
2. 食品リサイクルを推進します。
3. 省エネ活動でエネルギーの有効活用を図ります。
4. 省資源活動で環境資源の保全を図ります。
5. 環境関連法令や条例を遵守します。
6. 環境教育と地域貢献活動を推進します。
7. グリーン購入を推進します。

この環境方針は、全従業員に周知するとともに、社外へも公表します。

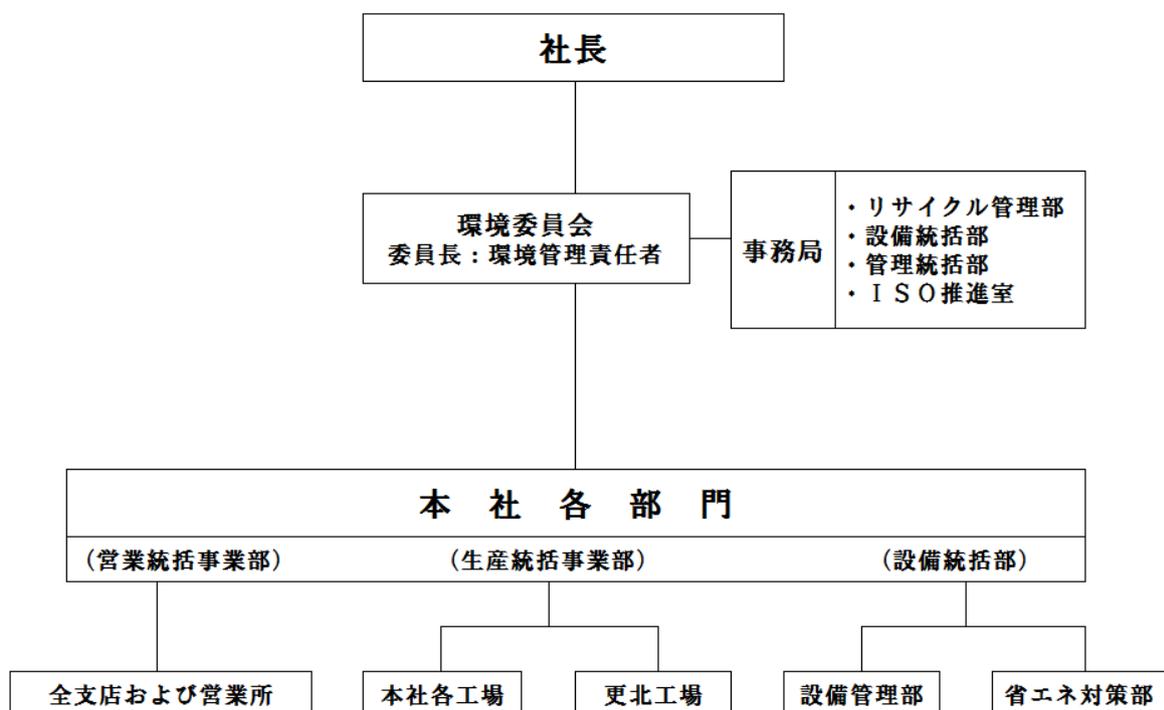
平成24年 3月 1日

株式会社 みすずコーポレーション

代表取締役社長

塚田 裕一

### 3. エコアクション21推進体制



### 4. 環境目標と実績

#### ■中期(2012年度～2014年度)環境目標

1. 食品廃棄物の排出量は2014年度には排出量の原単位で2011年度比3%削減した量を目標とする。  
食品リサイクル率は2011年度実績を維持する。
2. 使用エネルギーを2014年度には、エネルギー原単位で2011年度比3%削減し、CO<sub>2</sub>排出量はCO<sub>2</sub>排出量原単位で2011年度比3%減少させる。
3. 可燃ごみ・廃プラの廃棄量は、工場は2014年度には廃棄量の原単位で2011年度比3%削減した量を目標とする。直管部門は毎年、廃棄量を1%削減する。水の排水量は毎年1%削減する。
4. グリーン購入を推進する。購入時に必要性を考え、環境負荷が出来るだけ少ないものを選ぶ。
5. 化学物質使用量は既定量を遵守し、無駄を減らすことにより使用量の削減を計る。
6. 営業部門においては環境活動レポート等により当社の資源循環型企業としての考え方を取引先様にも理解していただき社会貢献の一助とする。
7. コンプライアンスの体制を維持する。



## ■2014年度環境目標

年度目標及び計画は次のとおりとする。

2014年度は原材料費、エネルギー費の大幅な増加が見込まれる。数値目標は中期計画によるが、各部門においては環境面も考慮した経費削減対策が求められる。生産部門はコスト削減委員会を中心にして、各部門の経費削減、合理化等を進めるとともに、省エネ対策部と協力して電気、ガス等のエネルギー削減対策を実施する。また、良品率向上、クレームの撲滅対策を継続的に推進することで廃棄物量を削減し、適正在庫量を管理して作り過ぎ等のムダを無くす。環境関連の事業として、昨年度は排水処理設備を改造して発電設備を導入、汚泥乾燥機も新規に設置した。排水処理設備は適切な運用により処理能力を維持すると同時にメタンガスの安定的な供給が求められ、ここから得られるメタンガスにより発電機の運転が可能となる。汚泥乾燥機は余剰汚泥を乾燥することで堆肥の原料として再利用する事が可能となり汚泥処分費の削減効果が見込まれる。今年度はこれら設備の導入効果が期待される。営業部門においては各担当者が環境活動に対する理解を深め、お客様に当社の環境への取り組みを説明することにより資源循環型企業としての考え方を理解していただく。

## ■2014年度環境目標と実績

○=達成 △=未達

2014度 全社環境目標		2014年度実績		評価	
1	食品廃棄物 排出量	2013年度の原単位比 1%削減	原単位売上	原単位で 1.34t/百万円(2013 年度1.36t/百万円)と1.5%削減 食品廃棄物発生量:17809t ※1	○
			原単位生産量	原単位で 17.45t/百万枚(2013 年度 17.73t/百万枚)と1.6%削減 食品廃棄物発生量:17809t	○
	食品リサイクル率	2013年度実績の維持	食品廃棄物の再生利用実施率は95.4%		○
2	使用エネルギー量	2013年度原単位比 1%削減	原単位売上	エネルギー原単位で 43,494.8MJ/百万円(2013 年度 44,569.9MJ/百万円)と2.42%削減 使用エネルギー量:578,481,271 MJ	○
			原単位生産量	エネルギー原単位で 14.8Kl/百万枚(2013 年度 15.32Kl/百万枚)と3.39%削減 使用エネルギー量:15,249Kl(原油換算 Kl)	○
	CO <sub>2</sub> 排出量	2013年度原単位比 1%削減	原単位売上	二酸化炭素原単位で2,189.4kg-CO <sub>2</sub> /百万円(2013 年度 2,240.3kg-CO <sub>2</sub> /百万円)と2.27%削減 CO <sub>2</sub> 排出量:29,119,020 kg-CO <sub>2</sub>	○
原単位生産量			二酸化炭素原単位で 28.529.0kg-CO <sub>2</sub> /百万枚(2013 年度 29,188.1kg-CO <sub>2</sub> /百万枚)と2.25%削減 CO <sub>2</sub> 排出量:29,119,020 kg-CO <sub>2</sub>	○	

3	水の揚水量	原単位で2013年度比1%削減	原単位売上	揚水量: 3,506,559m <sup>3</sup> /年 原単位で 263.6m <sup>3</sup> /百万円 (2013年度 271.0m <sup>3</sup> /百万円)と 3.74%削減	○
			原単位生産量	揚水量: 3,506,559m <sup>3</sup> /年 原単位で 3,435.5m <sup>3</sup> /百万円枚 (2013年度 3,530.9m <sup>3</sup> /百万円枚)と 2.71%の削減	○
4	可燃ゴミ・廃プラの廃棄量	工場部門:2013年度原単位比1%削減 直管部門:2013年度廃棄量1%削減	原単位売上	全社:原単位で 0.0158t/百万円 (2013年度 0.0176t/百万円)と 10.2%削減 可燃ゴミ・廃プラ量:209.58t ※2	○
			原単位生産量	全社:原単位で 0.205t/百万円枚 (2013年度 0.229t/百万円枚)と 10.5%削減 可燃ゴミ・廃プラ量:209.58t	○
5	営業部門における当社の環境への取り組み、資源循環型企業の考え方の明確化		新規開拓や既存のお客様に当社の概要を説明する際に、事業内容のみでなく、環境活動レポートを使用して当社の環境への取り組みを説明する機会が増加しつつある。		○
6	グリーン購入を推進する。		購入する以前に必要性、耐久性、ごみの発生が少ない商品を選ぶと共に、価格とも対比して購入商品を選択する。		△
7	コンプライアンスの体制整備		緊急事態発生時に管理者への状況報告と安否確認が出来る様に各自の携帯電話にメールで連絡が可能な緊急連絡網の仕組みを構築した。週次での経営会議報告、危機管理委員会の体制は従来通り。		○

※1 環境負荷とりまとめ表の食品廃棄物発生量を売り上げ高で割った数値を原単位としました

(2011年度中部電力株式会社の実排出係数(環境省資料より):0.000473t-CO<sub>2</sub>/kWh)

※2 一般廃棄物+廃プラ排出量を売り上げ高で割った数値を原単位としました

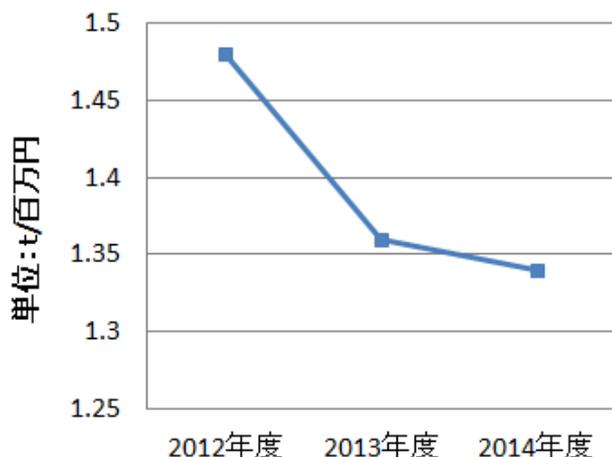
原単位生産量計算式

原単位量 : 2013年度 967.13 百万円枚

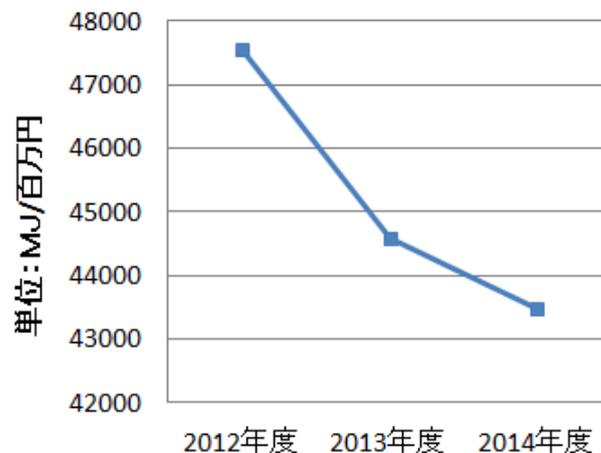
: 2014年度 1,020.678 百万円枚

計算式 : 発生量(t) ÷ 原単位量(百万円枚)

食品廃棄物排出量:原単位売上



使用エネルギー量:原単位売上 ※3

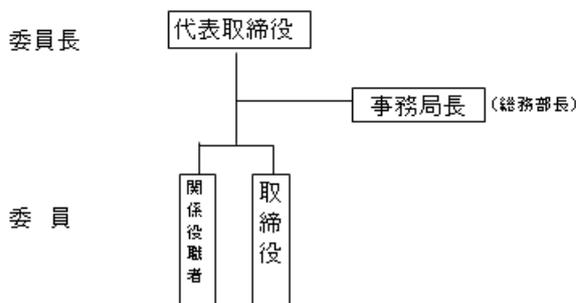


※3 使用エネルギー量に含まれていたバイオマスガスを、2013年9月よりバイオマスガスによる売電へ切替えたことにより、使用エネルギー量からバイオマスガス分を減じています。

## 【環境管理責任者コメント】

- ・全部門が環境活動に参加し、環境目標が達成出来るよう日々の仕事に取り組みました。
- ・食品廃棄物排出量が増加しました。原因は下期にTVで凍り豆腐の健康効果が紹介された事により増産体制を実施、比例して生オカラの排出量(重量換算比)、残渣類も増加しました。
- ・食品リサイクル率はほぼ前年並みで推移しました。おからをほぼ全量乾燥していることと廃水分離残渣を再利用することで継続的に達成されています。
- ・使用エネルギー原単位が減少しました。省エネ対策部による蒸気ドレン回収装置や省エネトラップの設置、エアコンプレッサ圧力の見直し、省エネ型油圧ポンプの導入等による効果が出ています。
- ・二酸化炭素原単位排出量は減少傾向にあります。生産量は増加しましたが、各種の省エネ対策により単位当たりの使用エネルギー量は削減されています。
- ・揚水量は生産量に伴い増加しましたが、各種省エネ設備の設置や対策により原単位では減少しています。
- ・可燃、廃プラは各職場で発生量を抑制、各職場で正確な計量を行い、データを収集しました。
- ・コンプライアンス体制については、各管理者の個人携帯電話に緊急メールの送信が可能なシステムを導入して緊急連絡網を強化しました。個別の発生事象に対しても応急対策と委員会による速やかな対応が出来る体制を構築しています。

### 危機管理委員会の組織



## 5. 次年度環境目標と環境活動計画

### ■2015年度環境目標と環境活動計画

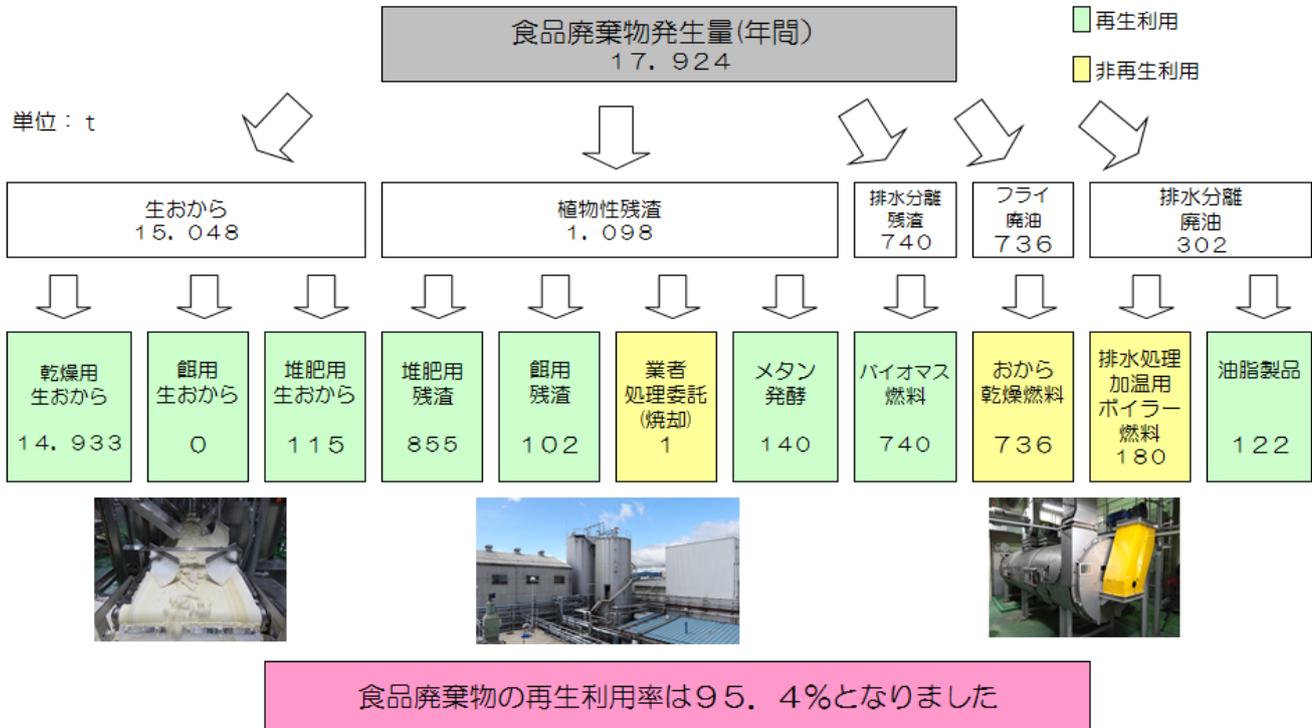
年度目標及び計画は次のとおりとする。

2015年度の重点目標はロスの削減(ムリ、ムラ、ムダの排除)。本年度も原材料費、エネルギー費の高止まりが予測されるので、全社でロスの削減に取り組む。数値目標は新中期計画によるが、各部門においては環境側面も考慮した個別の対策が求められる。このために新たにロス削減対策部を設立し、コスト削減委員会を通じて具体的な対策を実施する。工場は老朽化設備の保全を強化して設備に起因するロス防止、故障停止や廃棄物量を削減、電気、ガス等の省エネ対策は継続して実施する。また、新工場の稼働に伴い、油揚げは年間を通して人員と設備稼働率の最適化を計り、平準化生産体制を構築する。

営業は商品統廃合、リニューアル等による収支改善を行い、販促費削減、新規開拓等は継続して実施。2015年度はグッドカンパニー大賞 優秀企業賞他各表彰を受賞した事の意義を理解し、担当者は環境活動に対する考察を深め、お客様に当社の環境への取り組みを説明することにより資源循環型企業としての考え方を理解していただく。

## 6. 主要な環境活動と結果の評価

### ①食品廃棄物のリサイクルの推進



### ■ その他

汚泥の乾燥化による菌体肥料の販売 2014年度度販売量：339.8t

バイオマス発電機稼働による発電 2014年度度総発電量：1,762,820kWh

### ②環境教育と環境コミュニケーションエコアクション21教育(2015年2月18日)

ミドリ安全株式会社の環境管理室長 杉浦伸夫様を講師としてお迎えし、エコアクション21の勉強会を開催いたしました。「もれのない職場管理を考える～環境マネジメントシステムを活用して～」を演題に職場管理の仕方、ISO14001やエコアクション21のシステム構成などを話していただきました。

もれのない職場管理を考える  
～環境マネジメントシステムを活用して～

(株)みすずコーポレーション様講演会  
2015年2月18日(水)  
講演者：ミドリ安全(株)環境管理室長 杉浦伸夫

## ■ 各賞の受賞

### ○「グッドカンパニー大賞」 優秀企業賞受賞(2015年2月2日)

公益社団法人中小企業研究センターが主催するグッドカンパニー大賞で、優秀企業賞を受賞致しました。この賞は全国の中小企業の中から経済的、社会的に優れた成果を挙げている企業を選んで贈られる、わが国で最も歴史と実績のある中小企業のための賞です。



### ○「食品産業優良企業等表彰」 環境部門 食品リサイクル推進タイプ

#### 農林水産大臣賞受賞 (2015年3月10日)

「おからは資源である」という考え方にに基づき、約40年前からおからの乾燥試験に取り組み、各種の乾燥方法により実際に乾燥おからを生産することで品質向上と用途開発を進めてきました。豆腐製造工程において発生する副産物の有効利用が評され、一般社団法人食品産業センター主催の「食品産業優良企業等表彰」の食品リサイクル推進タイプで農林水産大臣賞を受賞致しました。



### ○「百年企業(信州の老舗)表彰」 受賞(2014年11月28日)

創業以来100年以上の長きにわたり事業を継続し、長野県の地域社会及び経済の発展に大きく貢献した功績が称えられ、長野県より長野県百年企業(信州の老舗)として表彰されました。



(左)各賞の表彰式の記念写真、(右)頂いた賞状



## ■環境強化月間(2014年6月、9月)

事業活動の環境への様々な影響を理解し、企業の内外で環境に配慮した行動を社員一人一人が認識しなければなりません。環境保全意識の一層の徹底をはかるために、当社では毎年6月と9月を「環境強化月間」と定めております。2014年度は、次のような活動を実施いたしました。

### 環境強化月間行事実施内容

No	行 事	実施日	行事の内容
1	ポスターの掲示	6月初旬	「環境月間」ポスター設置
2	工場周辺清掃	5月27日	工場外周りの空き缶・ごみ拾い草取り等の清掃活動 地域のゴミ0運動と連動して実施
3	特定敷地内草取り	6月2日 ～6月6日	アークス井戸周辺・ハッピングセンター境界敷地における草取り 及び各自駐車場草取り
4	工場敷地内清掃	6月17日	敷地内草取り・ごみ拾い・排水路清掃
5	工場周辺清掃	9月2日	地域のゴミ0運動と連動して実施
6	ノーマイカー通勤 ウィーク運動	9月8日～13日	自転車・徒歩での通勤の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・延べ通勤距離 489.2km</li> <li>・削減した燃料使用量 50.4ℓ</li> <li>・削減した二酸化炭素排出量 116.9kg-CO<sub>2</sub></li> </ul> (※長野県環境保全協会の実施結果数値から算出)



↑ 工場周辺および敷地内清掃の様子

## ■省エネルギー対策

電気・ガスの使用量は生産量の増加に伴い、前年対比電気104.2%、ガス101.0%となりましたが、各職場の省エネ対策により、エネルギー原単位前年対比は96.6%となりました。

設備の省エネルギー化①(2014年10月)  
蒸気ドレン回収装置及び蒸気発生装置の導入。  
本社蒸気使用量の2%の削減。



設備の省エネルギー化②(2014年4月)  
エアーコンプレッサー5台、圧力設定の見直し実施。  
10,620KWh/年の削減。



設備の省エネルギー化③(2015年3月)  
5台の油圧ポンプを省エネ型に更新。  
消費電力50%の削減。



設備の省エネルギー化④(継続実施中)  
蛍光灯機器140台をLED機器に更新。  
消費電力40%の削減。



設備の省エネルギー化⑤(継続実施中)  
省エネ型蒸気トラップに更新したことにより、更新職場  
のスチームロス10%の削減。



設備の省エネルギー化⑥(継続実施中)  
バルブ、配管継手関係にエコジャケットを装着。  
放熱ロスを90%削減。28箇所装着





### ③緊急事態対応訓練

#### ■消防訓練(2014年7月23日)

本社工場リサイクル管理部副産物職場からの出火を想定した消防訓練を行いました。消防署への通報、避難、自衛消防班による消火活動実習等を実施しました。また、全従業員対象に各職場の朝礼において、避難経路、避難方法、初期消火方法等の教育を実施しました。



↑ 消防署へ通報



↑ 火災報知機発報



↑ 避難



↑ 避難者確認および設備点検報告



↑ 自衛消防班による放水訓練



↑ 安全衛生委員長による訓示

#### ④社会貢献

##### ■工場見学

弊社では小学生の社会見学、就職支援のための職場見学、公民館の研修等のお役に立てる様に随時工場見学を受け入れています。見学時には、会社の概要を説明し、DVDにより凍り豆腐、油揚げ・味付けいなり揚げの製造方法、安全・安心への取り組み、環境への配慮等を紹介し、見学通路から油揚げ・味付けいなり揚げの生産現場をご覧いただくことが出来ます。ご自宅で凍り豆腐や味付けいなり揚げの料理が楽しめる様にレシピの提供やショッピングの準備もしております。お客様のニーズによっては環境への取り組み実例として排水処理設備や発電設備の見学も行っております



会社の紹介DVDや商品サンプルを見て勉強



専用通路から油揚げや加工の生産工程を見学

##### ■料理教室

弊社では出張スタイルの料理教室を実施しています。専任の先生をお招きして主に凍り豆腐を使用したオリジナルレシピを準備しています。凍り豆腐が煮物やみそ汁の具以外の思いがけない料理に変身します。作った料理は昼食を兼ねた食事会で試食し、作り方や味付け方法等の質問があればその場ですぐに確認することが出来ます。レシピも配付しますので自宅で調理する事が出来ます。



料理教室開催の様子



凍り豆腐を使ったオリジナルレシピ

これらの活動を通して地域の方々とのコミュニケーションを深め、弊社の考え方や姿勢を知っていただく事も重要と考えております。

## 7. 適用法令の遵守状況 (2014年度)

法規制等の名称	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物管理票(マニフェスト)及び多量排出事業者の定期報告 長野市環境部 廃棄物対策課への提出(6月実施)
食品リサイクル法	関東農政局へ報告書提出(6月実施)
省エネ法	関東経済産業局・関東農政局への報告書提出(6月実施)
地球温暖化対策法	長野県生活環境部への報告書提出(6月実施)
騒音規制法	特定施設の新設有り、長野市環境部環境政策課へ届け出済み
水質汚濁防止法	排水処理の排出基準において超過なし
浄化槽法	年1回法定検査(4月実施) 保守点検 1回/2ヶ月
市公害防止条例	揚水設備の新設無し 揚水量の定期報告(4月実施)
大気汚染防止法	ばい煙発生施設の新設無し ばい煙量等の測定実施

遵守状況確認日 2015年3月31日(一部は6月)

■上記の他、環境関連法令を遵守した活動を行っており、訴訟等もありませんでした。

2014年度においては、食物残渣の廃棄コンテナ外部に残渣が落下したまま放置された事による臭気発生に関するご意見をいただきました。当事案については、残渣落下場所の表土のすき取りと入れ替えを行って、臭気の発生源を除去しました。同時に食物残渣廃棄コンテナの設置場所を変更して上面にシート状のカバーを取り付け、職場担当者への教育と監視カメラも設置して再発防止策と致しました。また、長野市の担当課にて弊社の排水を流している用水の水質検査が行なわれ、水質改善への協力要請がありました。社内基準を遵守すると共に、用水の水質を維持するために希釈水の導入等、弊社において対応が可能な対策について検討を行う事としました。

### 【経営者コメント】

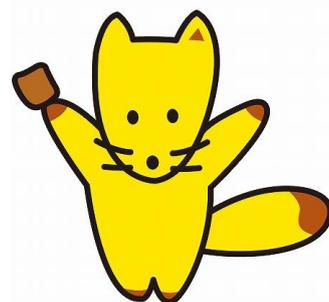
昨今の円安による原料、電力・燃料価格の上昇は企業経営にとって大きな負担となっています。一方、厳しい価格競争の中にあって製造原価の増加分をそのまま商品価格に転嫁する事も簡単には出来ません。このため、2014年度は全社を挙げて管理可能費の削減対策に取り組みました。環境側面から見ても有効な対策の事例として、おからの全量乾燥、余剰汚泥の乾燥、バイオガス発電等は順調に稼働し、事業としての位置付けも明確になってきました。工場に新規導入された蒸気ドレン回収装置、省エネトラップの効果は顕著であり、消費エネルギーも削減する事が出来ました。物流において、外部倉庫の在庫が正確に把握できるシステムを構築した事により長期在庫や廃棄ロスの削減が出来るようになりました。今後もこのような対策を継続的に実施して業務改善と経費削減を積極的に推進致します。

一方、2014年度は弊社の今日までの経営実績や環境への取り組み等を公的に評価していただいた年になりました。11月に長野県より100年以上の歴史を持ち地域社会及び経済の発展に大きく貢献した百年企業(信州の老舗)として表彰されました。2月には公益社団法人中小企業研究センターが主催するグッドカンパニー大賞において優秀企業賞を受賞いたしました。また、3月には一般財団法人食品産業センターが主催する「食品産業優良企業等表彰」の環境部門 食品リサイクル推進タイプで農林水産大臣賞を受賞致しました。

これもお客様、お取引様からの多大なご支援の賜物であり感謝申し上げる次第でございます。今後とも一層のご指導をよろしくお願い申し上げます。



↑ 乾燥おからを使用した新商品



コン太